

1 計画改定の基本的事項

○計画期間 R8～12 年度 ※中間見直しのため 10 年計画の後半 5 年間が対象

○策定の目的

現行計画の策定から5年が経過。人口減少や高齢化が進むなど、ごみや資源を取り巻く社会情勢が変化したことに対応するために改定

2 社会情勢の動向

<国(政府)>

- ・脱炭素への対応が喫緊の課題。SDGs の目標年度も近づいてきており、本気の取組が必要(第六次環境基本計画「勝負の 2030 年」)
- ・第五次循環計画において「循環経済を国家戦略に」据えて取り組んでいくことを明記、資源循環の取組をより強化
- ・第五次循環計画では、地域での資源循環システムの構築を地域課題の解決につなげる方針を打ち出し。脱炭素・プラごみ等の海洋ごみ(プラ新法制定)・食品ロスへの対応を継続的に重視
- ・全国的なりちウムイオンバッテリー等の発火物による処理施設等の火災の頻発を受け、安定的なごみ処理に支障がある廃棄物への対応を要請

<奈良県>

- ・奈良県廃棄物処理計画(第 5 次計画)(R5.3)を策定。
- ・国の計画等を踏まえ、「ごみゼロ生活」、「廃棄物の循環的利用の促進」、「県・市町村の連携・協働の推進」、「災害廃棄物対策の推進」などの方針を設定
- ・「未来に生きる「ごみゼロ奈良県」の実現」を基本目標に設定

3 現行計画の進捗状況

(1)現行計画の目指すところ

○ごみ半減計画の後継として、10 年間でごみ排出量の 15%削減を目指す

(2)目標の達成状況

- ごみ排出量(家庭系・事業系を合わせた全体)は目標達成に向けて順調に推移
- 一方、家庭系ごみもある程度減量が進んでいるものの、目標達成には至っていない(1人1日当たりごみ排出量は、基準年度比で 3.6%減)
- 事業系ごみは新型コロナウイルス感染症の流行をきっかけに減少、コロナ後も減少が継続

項目		単位	基準年度	目標★	実績	最終目標年度
			R1	R5		R12
			2019	2023		2030
人口		(人)	119,281	118,354	116,819	114,078
削減目標	ごみ排出量	(t/年)	33,780	32,567	32,260	28,610
	(基準年比)	(%)	—	-3.6%	-4.5%	-15.3%
	家庭系ごみ排出量	(t/年)	24,759	23,737	23,935	20,951
	(基準年比)	(%)	—	-4.1%	-3.3%	-15.4%
	事業系ごみ排出量	(t/年)	9,021	8,830	8,324	7,659
	(基準年比)	(%)	—	-2.1%	-7.7%	-15.1%
(参考)	1人1日当たりの家庭系可燃ごみ排出量(可燃ごみ収集分のみ)※	(g/人・日)	419	400	404	356
	(基準年比)	(%)	—	-4.5%	-3.6%	-15.1%

※年間日数は 365 日として1日当たりのごみ排出量を計算した。

★R5「目標」の値は、R12 の目標達成に向けた中間(R5)での到達点(計画書 p.47)

(3)施策の進捗状況

○5R 行動の実践につながる具体施策を幅広く実施

- ・ホームページやリーフレット、どこでも講座などの啓発事業を実施
- ・古着や食器のリユース、フードドライブなどものの有効活用を推進

○「こみすて」などの複合型コミュニティでの取り組みを展開

- ・「こみすて」がコミュニティを活かした取り組みの優良事例として、国の「環境白書」にも掲載

4 これまでの生駒市の取組とその成果

※下線部は令和6年度生駒市市民実感度調査結果報告書より

- ・環境モデル都市(H26～)、SDGs 未来都市(R1～)、脱炭素先行地域(R6～)に選定。全国的にも環境先進都市としての歩みを進める
- ・DX による地方創生(「生駒市デジタル田園都市構想総合戦略」(R6))
- ・65歳以上の高齢人口の割合は30%(R5)で着実に高齢化が進展
- ・転入者が多い(年間約 3.5 千人)
- ・定住意向が強く(「住み続けたい」8割超)、市政への関心も強い(6 割が「関心がある」)
- ・市民としての『誇りを持っている』方が約 6 割と高い
- ・市民活動も活発であり、「参加してみたい」「関心がある」市民が多い

環境先進都市としての取り組み

- ・環境モデル都市、SDGS 未来都市、脱炭素専攻地域

主体的な市民の先進都市

- ・まちのえきなど地域団体との連携
- ・市民主体で始まった多くの活動

5 計画改定のポイント

- ①ごみ減量化を通じて資源循環を進める
- ②ごみ減量化を通じてまちの課題解決に貢献する
- ③持続可能で暮らしやすいまちづくりの推進

6 課題と課題解決の方向性(現時点の想定)

○家庭系ごみ(1人1日当たりごみ排出量)の減量

- ・ごみ量全体は減少傾向だが、家庭系ごみ(1日当たりごみ排出量)の減量が停滞気味。在宅勤務の普及や物価高騰による外食減等が影響
- ・リサイクル意識や分別ルールの浸透が不十分(食品ロス等の生ごみ多い)
- ・古紙の資源化量の減少、プラ製容器包装の分別排出が進んでいない
⇒プラ製容器包装・古紙類の分別徹底、手付かず食品等の食品ロス削減
- ・終活、断捨離が不十分であり、不用品のリユース等が進んでいない

○コミュニティを活かした取組で、ごみの課題とまちの課題を同時解決

○地域コミュニティや活発な市民活動を活かした取組で、ごみの課題とまちの課題を同時解決

- ・5R 推進やその先の「まちの魅力向上」に向け、生駒の特徴である地域コミュニティを活かした取組を更に充実(どこでも講座、コミステ活用)
- ・市民による自主的なごみ減量・資源化の取り組みの充実を図る
⇒ リレーセンターでのリユース推進(食器市、家具リユース市)等
- ・「5R の推進」と「まちの魅力向上」の両立を重視し、市民・事業者による自主的なごみ減量や資源化の取組のさらなる拡充を図る

○事業系ごみの実態把握の推進、減量・資源化の促進

- ・事業者のごみ減量や資源化の取り組み状況の把握ができていない

○再資源化事業者の活用等が不十分(水平リサイクル等の推進の遅れ)

○DX 活用、Li バッテリー対応、安定的な処理体制の確保

○製品プラのリサイクル検討等、プラ新法への対応が必要

7 改定のための基礎調査等

【これから実施】

- 市民アンケート(1,500 配布)、事業者アンケート(100 配布)
- ワークショップの開催(市民・小学生) 等

【毎年実施】

- ごみの組成分析調査

8 ごみ処理基本計画改定の方向性

(1)基本理念・基本方針の考え方

- ・事業者・行政の協働・共創による5R の実践、市民力、コミュニティ力を活かす
- ・本計画がごみの課題解決にぐわえ、総合計画の将来都市像の実現にもつながる

【計画の基本理念・基本方針と市の将来都市像との関係】

総合計画の将来都市像「自分らしく輝けるステージ・生駒」

(未来の生駒市の姿)

子育てと働き方が多様化しているまち

地域コミュニティに加えて SNS 等での緩やかなつながりにより市民のアイデアが実現しているまち

様々な人が未来の生駒で暮らし、活動し、交流するそれぞれの輝く人生をかなえているまち

基本理念(案): みんなでつくる5Rのまち いこま

基本方針Ⅰ
すべての市民が
取り組みやすい
5R の実践

基本方針Ⅱ
環境問題全体に
配慮した行動の
推進

基本方針Ⅲ
事業系ごみの
減量・資源化の
強化

基本方針Ⅳ
地域コミュニティ
の活用

(2)施策体系(案)

基本方針Ⅰ すべての市民が取り組みやすい5Rの実践	
基本施策①	5Rの実践によるごみを出さない行動の促進(一部修正)
基本施策②	分かりやすい情報提供と環境教育の実施
基本施策③	食品ロスの削減
基本方針Ⅱ 環境問題全体に配慮した行動の推進	
基本施策④	バイオマスの資源化
基本施策⑤	安心・安全なごみ処理体制の構築
基本施策⑥	リサイクルの高度化(水平リサイクル)の推進(追加)
基本方針Ⅲ 事業系ごみの減量・資源化の強化	
基本施策⑦	事業系ごみの減量に向けた取り組み
基本施策⑧	事業系ごみの資源化の促進
基本方針Ⅳ 地域コミュニティを活用した5R実践とまちの活性化(変更)	
基本施策⑨	複合型コミュニティ(まちのえき)を活用したごみの減量・資源化
基本施策⑩	すべての市民が暮らしやすいまちづくり

ごみの課題とまちの課題を同時解決し持続可能で暮らしやすいまちづくりを推進

(3)新たな取り組み(案)

リフューズ	3キリ運動の推進
リデュース	キエーロ作成講座、フードドライブ、葉山サイズのキエーロの販売
リユース	リユース市、もったいない食器市、(断捨離、終活)
リペア	家具リペア拠点の整備、活用
リサイクル	資源ごみ拠点回収、剪定枝の資源化、民間の資源ごみ集積所拡充 IOP ーク21で生ごみ受入、製品プラ、水平リサイクル
その他	まちのコインの活用、まごころ収集拡大、事業者の減量事例等

(4)目標設定

- ・現行計画と同じ目標(総量、家庭系、事業系)を継続し、目標値は改めて設定
- ・10 年間でごみ排出量の 15%削減は継続